

核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近) 地元検討会について

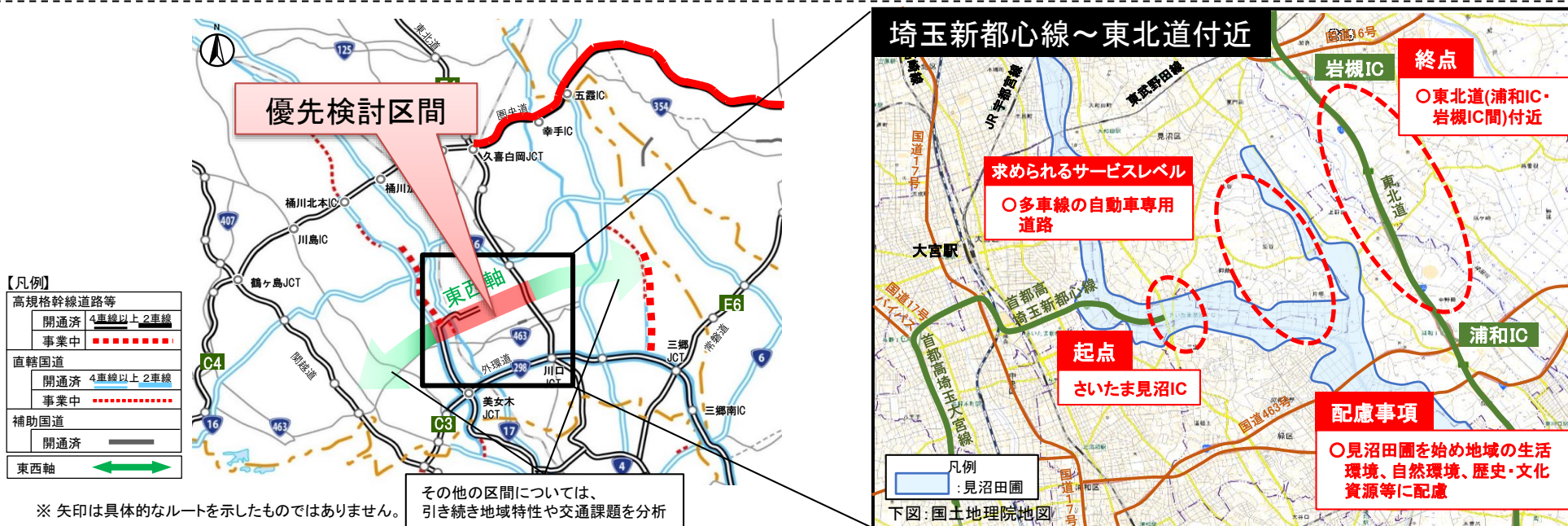
令和7年8月25日

1. 核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）の概要

埼玉県東西軸道路検討会（令和3年12月10日）のとりまとめ

埼玉県東西軸道路検討会で優先検討区間についてとりまとめを実施
令和3年12月10日埼玉県東西軸道路検討会資料を一部加筆

- 優先検討区間**：外環道（三郷南～高谷）開通後の交通状況変化等に対応し、埼玉県南部における慢性的な混雑を改善し、物流施設の立地や人口集積が進む圏央道と外環道間の東西方向の連携を強化する観点から、埼玉新都心線～東北道間を優先し、概略計画の検討（計画段階評価）を進める。
- 求められるサービスレベル**：多車線の自動車専用道路
- 概ねの起終点（優先検討区間）**：起点はさいたま見沼IC、終点は東北道（浦和IC～岩槻IC間）付近とする。
- 配慮事項等**：
 - ・概略計画の検討にあたっては、地域の重要な区域・施設を把握し、見沼田圃を始め生活環境、自然環境、歴史・文化資源等に配慮する。
 - ・このためさいたま市が中心となり、国や埼玉県とも連携し、道路の必要性等について地域住民の理解を得られるよう、積極的に取り組む。
 - ・国、埼玉県及びさいたま市は、周辺道路管理者の東日本高速道路（株）及び首都高速道路（株）と調整しながら、今後の検討を進めていく。



2. 複数案(ルート帯・主たる構造)の概要

令和7年8月4日核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)
第3回地元検討会資料を一部加筆

○課題・目的を達成するために考えられる複数案(ルート帯・主たる構造)を2案選定。



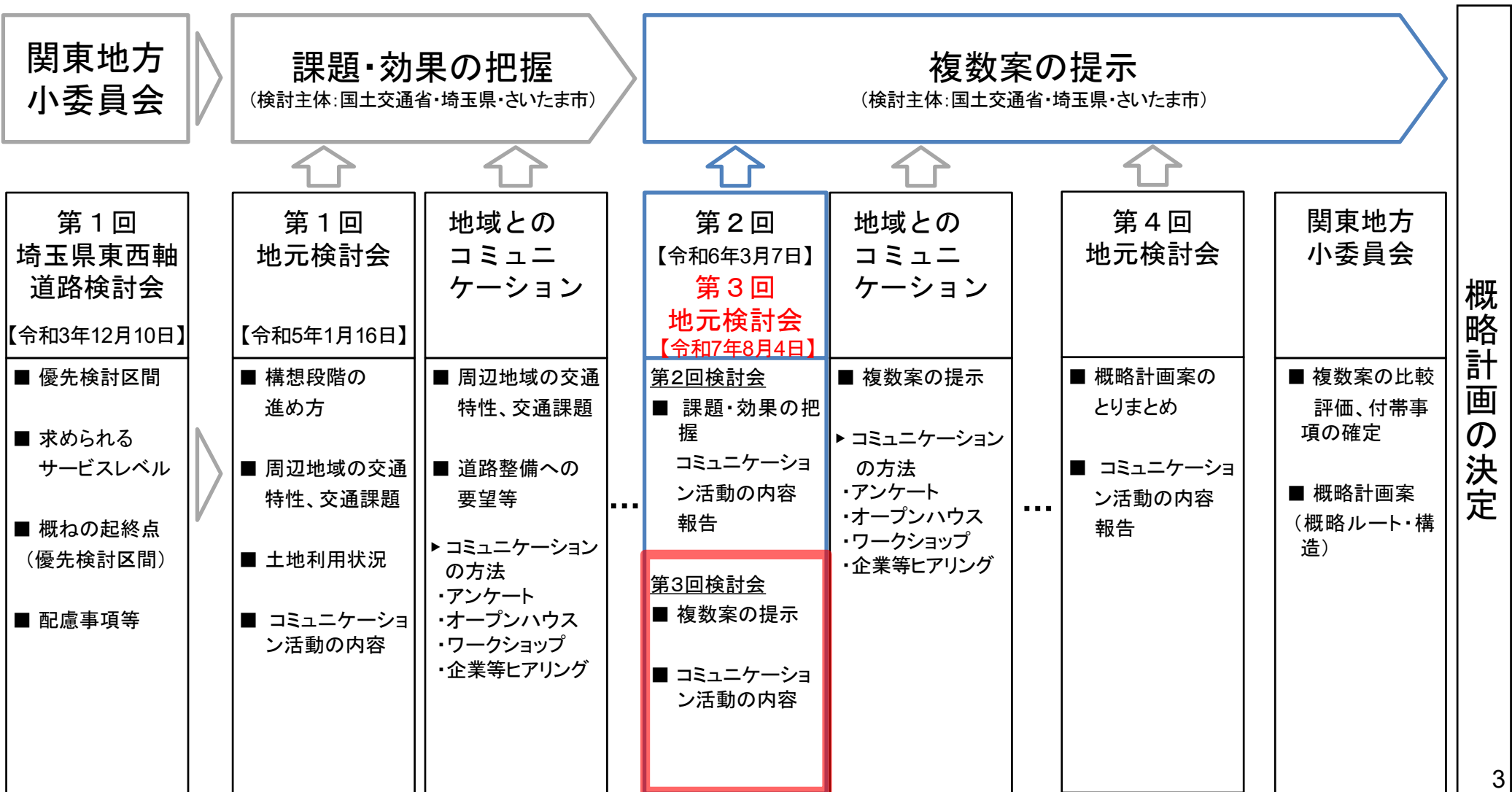
ルート帯案	ルート帯案の概要	主たる構造案
案① 北側ルート	- 埼玉新都心線・さいたま見沼ICと東北道を最短で結ぶルート帯 - 比較的見沼田圃を通過する延長が短く、自然環境等の影響を抑えられる	核都市広域幹線道路 車道幅員 25.5m 3.25m 3.5m 3.75m 4.5m 3.75m 3.5m 3.25m 路肩 車線 車線 中央分離帯 車線 車線 路肩
案② 南側ルート	- 住宅地を極力回避した支障物件が少ないルート帯 - 比較的住居地域を通過する延長が短く、住居環境への影響を抑えられる	

3. 今後の検討会の進め方、スケジュール(案)

令和7年8月4日核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)
第3回地元検討会資料の抜粋

- 今後、住民のみなさまや道路利用者の方と「複数案の提示」についてコミュニケーションを図る。
- 頂いたご意見を踏まえて、複数案を比較評価し、概略計画案をとりまとめる。

■今後の検討会の進め方、スケジュール(案)



【参考】核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)と並行する東西路線の
主要渋滞箇所(国道17号現道～東北道間)

- 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)と並行する国道16号、国道463号、県道(新方須賀さいたま線、さいたま春日部線)では26箇所の主要渋滞箇所が存在
- 核都市広域幹線道路(埼玉新都心線～東北道付近)の整備により、これらの主要渋滞箇所の渋滞の緩和も期待される。

